

死からの復活

今日は、1テサロニケ5:23-24を宣言しましょう。いつものように、自分のものとしてこのみことばを宣言するために、「あなたがた」という部分を「私たち」に言い変えて宣言します。今日は、主の再臨に関することをお話ししますので、私たちが主の再臨に備えるための特別なみことばです。

「平和の神ご自身が、私たちを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、私たちの霊、たましい、からだを完全に守られますように。
私たちを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてくださいます。」

さて、土台の教えも、残り2つとなりました。この学びでは、死からの復活を、最後の学びでは、永遠の裁きについて話します。

私たちは、復活という言葉の意味を理解する必要があります。ギリシャ語では、「～から立ち上がる」です。つまり、復活とは死からの立ち上がり、墓からの立ち上がりです。最初に宣言したみことばで、人は霊、たましい、からだからなっていることがわかります。体は死に、その体が、よみがえらされるということを理解することは重要です。霊とたましいは死ぬことがないので、復活する必要はありません。ですから、私たちは体の復活のことについて語ります。これは、非常に重要なことです。

今日は、人が死んだ後に何が起こったのかを聖書の中から少し見ていきたいと思います。死んだあと、どうなるかというのは、国籍や文化に関係なく、世界中どこでも興味のある話題だと思います。

聖書はこれについてかなり明確に表現しているので、それについてのアウトラインと復活への影響を見ていきたいと思います。

ルカ16:22-31で、イエスは何が起こるのかを私たちに示しています。これは決して例え話と呼ばれていないことを言っておきます。「例え」という言葉がこれに関して用いられていないからです。ルカ16:19からです。

「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。ところが、その門前にラザロという全身おどきの貧しい人が寝ていて、金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおどきをなめていた。さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しきもだえているのです。そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。』彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみの場所に来

ることのないように、よく言い聞かせてください。』しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』』

まさに、経験から証明された真理です。イエスが死からよみがえられた時でさえ、モーセと預言者たちを信じなかった人たちは、何が起きているのかわかりませんでした。これは非常に厳粛な考え方です。私たちは、時にすばらしい超自然的な現れを期待し、それが起こったら私たちは理解できると言います。しかし、神は、「あなたが私のことばを持っているなら、それがあなたに必要なすべてのものです。それを信じ、それに従うなら、みことばはあなたを導く。」と言われます。

さて、この金持ちとラザロの話から、特徴を見ていきましょう。5つの特徴があります。

第一に、死んだ後も人格は残るといことです。金持ちの男はなお金持ちの男であり、ラザロはラザロのままです。二人とも自分の人格を失ってはいません。死んだ後は全てが消え去り、何も残らないと教える人もいますが、それは聖書的ではありません。私たちは死んだ後も、生きていた時と同じ人格を引き継ぎます。

第二に、人として認識されるということです。金持ちはラザロもアブラハムも認識できました。そしてラザロは金持ちを認識できました。

第三に、地上での生活の記憶があるということです。金持ちとラザロは、死ぬ前のそれぞれの生活の状況を思い起こすことができました。

第四に、今おかれている状況の自覚があるということです。金持ちは苦しんでおり、彼の舌は炎で焼かれ、ラザロはアブラハムのふところでは慰められ、平安を得ていました。

第五に、義と不義の間に完全な隔たりがあったということです。それぞれ指定された場所があり、互いに行き来することはできませんでした。

もう一度その5つを復習しましょう。非常に重要なことであり、今日の多くの学説に反するものだからです。

一つ目は、アイデンティティーは失われず、人格はそのまま残ることです。

二つ目は、人であると認識されることです。

三つ目は、地上での人生の記憶があることです。

四つ目は、死後の状況の自覚があることです。

そして5つ目は、義と不義の間に完全な隔たりがあることです。

さて、イエスが死んでよみがえる前に死んでしまった人には、何が起こったのでしょうか。人間の歴史とたましいの行先は、イエスの死と復活の前と後で二分されたため、同じではありません。イエスの死と復活は実に、全宇宙に変化をもたらしたのです。それは、宇宙の歴史で最も明白な出来事で、死んだ人に起こることに影響を与えました。

イエスの死の前に死んでしまった人について見ていきましょう。すでに金持ちとラザロの話で見ましたが、すべてのたましいは、ヘブル語でシェオル、ギリシャ語でハデスと呼ばれる場所を通ります。ギリシャ語のハデスという単語は、見えない世界という意味です。ですから、義人であれ、不義な人であれ、みな同様にこのハデス、あるいはシェオルと呼ばれる見えない領域を通ります。これは体を離れたたましいの場所ですが、義人とそうでない人のために、完全に離れた場所があります。そして、前の学びでも言ったように、すべての人は義であるか、そうでないかのどちらかで、その中間というのはありません。あなたは、少し義で、少し不義であるということはありません。どちらか一方です。

義人のための場所は、「アブラハムのふところ」と呼ばれ、義人たちは、信じるすべての人の父アブラハムのふところに迎え入れられ、慰められる、というのが私の理解です。

イエスが死なれた時に何が起こったのでしょうか。イエスは完全なお方でした。私たちと同じように、霊、たましい、からだを持っておられました。イエスのご性質においては、その3つの要素はそれぞれ違った意味がありました。ルカ23:46で、イエスが死なれた時にその霊に何が起こったかを見ることができます。

「イエスは大声で叫んで、言われた。」

私は、その叫びは、“完了した”であったと信じます。

「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

このように、イエスの霊は父に委ねられました。私はそこまでしか言うことができません。それ以上のことがあったかもしれませんが、私には説明できません。

イエスのたましいはどうなったのでしょうか。使徒2章でペンテコステの日にペテロは、詩篇の作者ダビデの体験ではなく、イエスの体験として詩篇16篇を引用して語っています。

ペテロは、ダビデはイエスについてこう書いていると言いました。

「私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでいる。私の身もまた安らかに住まおう。まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず・・・」

このように、イエスのたましいは霊と離れた領域に行きました。また、1ペテロ3:18、19にこうあります。

「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。その霊において、キリストは捕ら

われの霊たちのところに行って、みことばを語られたのです。昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。」

つまり、イエスはハデスに下り、その詳細を私は説明することができませんが、聖書が言っていることをお伝えしましょう。イエスは宣言されました。この訳では、みことばを語られたとありますが、それはみことばを宣言されたということです。イエスは福音を語る必要がなかったということではなく、宣言をされたということです。私が想像するには、イエスは、「今からは私がこの場所の支配者である。私は死とハデスの鍵を持っている。そして今からのすべてのことにおいて、あなたは私に対して責任がある。」これは、私の考えで、正しくないかもしれません。

さて一方、イエスのからだは墓に納められました。ヨハネ19:40以降でイエスが十字架で死なれた後に起こったことが書かれています。19:40、42。

「そこで、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香料といっしょに亜麻布で巻いた。」

彼らは、遺体が腐敗し、匂いを放つため、かなりの量の香料を染み込ませた細長い亜麻布でイエスのからだを包みました。

「イエスが十字架につけられた場所に園があって、そこには、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。その日がユダヤ人の備え日であったため、墓が近かったので、彼らはイエスをそこに納めた。」

このことについては、特に詳しくお話する必要はありませんね。

また、イエスがよみがえられた後、使徒たちや女性たちが墓に行って、確かに納めたはずのイエスのからだをなかったことをその後の節から知ることができます。ハレルヤ！

では、イエスの全人格はどうなったのでしょうか。イエスはご自身の霊を父にゆだね、たましいはハデスに下り、そこで宣言をし、他にも多くのことをしたでしょうが、イエスのからだは墓にありました。しかし、よみがえられた時、イエスの全人格は再び一つとなり、霊、たましい、からだを持った完全な人となりました。

イエスの死と復活を通して起こったことは、全宇宙に影響を与えました。それはまた、死によるたましいの行先を決定付けました。イエスの復活以降、義人の行き着く先はハデスではなく、別の、もっと栄光あるところですよ。2つの例を挙げましょう。人々がステパノを石打ちにし、彼には死が迫っていました。使徒7:57-59です。

「人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。『主イエスよ。私の霊をお受けください。』」

ステパノは、自分の霊が直接イエスのもとに行くことを知っていました。これこそが、イエスの死と復活によってなされた変化です。

「そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。『主よ。この罪を彼らに負わせないでください。』こう言って、眠りについた。」

ステパノがそのように祈ったので、タルソのサウロは、救われたのかもしれませんが。もし、ステパノがサウロの罪の意識を解放しなかったら、サウロは決して救われることがなかったかもしれません。それは素晴らしい考え方です。

しかし、私が真の信者に強調したいことは、イエスの血によってきよめられ、神のために忠実に生きるなら、死によって霊はイエスの元へ直接引き上げられるということです。パウロもまた、このことをピリピ1章で言及しています。彼は、どちらを選んだらよいのかわからないと言っています。地上で生き続けることか、死によってイエスの元へ行くことどちらがよいのか。ピリピ1:23です。

「私は、その二つのもの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。」

このように、この時点で、パウロは自分が死んだら、キリストと共にいるということに完全な確信がありました。これは、イエスの死と復活によってなされた大きな変化の一つです。

また他にも起こったことがありましたが、そのすべてについて詳しく語ることは私にはできません。それは、アブラハムのふところにあった義人のたましいが解放されたということです。

エペソ4:8を見てみましょう。ここは、詩篇68章が引用されており、イエスに復活について書かれています。

「そこで、こう言われています。『高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。』」

私の理解、また多くの聖書注解者たちによる理解は、「彼は多くの捕虜を引き連れ」というのは、イエスが義人のたましいを解放し、ご自身とともに天へと連れて行った、という解釈です。このように、それらのたましいは、実際に罪の報酬が支払われるまで、解放されることはないのです。神は、彼らを義人として受け入れました、なぜなら、彼らはまだささげられていなかったいけにえ(つまりイエス)に自分たちの信仰を置いたからです。彼らは約束されたいけにえ(イエス)を待ち望んでいました。しかし、そのいけにえが実際に捧げられるまで、つまりイエスの十字架での犠牲まで、彼らは(たましいは)解放されませんでした。しかし、イエスがご自身を捧げられ、ハデスに下り、ある時点で、なんらかの方法でイエスはそのたましいたちを連れて行きました。私はそう信じます。彼らは、死の捕虜となっていました、イエスは捕虜を引き連れられたのです。彼らはイエスの捕虜となり、義の捕虜となりました。それは私にとってとても興奮すべきことです。

さて、次に、非常に重要なことですが、イエスの復活は、私たちの復活の保証ですが、それは、私たちが完全に主に献身しているなら、です。コロサイ1:18でパウロは再度イエスの復活について語っています。

「また、御子はそのからだである教会のかしらです。」

ですから、イエスはかしらであり、私たち信者はからだです。イエスはまた、初めです。

「御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。」

つまり、イエスは死者の中から最初に生まれた、まったく新しい創造のかしらです。一人の人間の中に神と人の性質を兼ね備えた、神であり人という、新しい人種のかしらです。

イエスはからだのかしらで、死者の中から最初に生まれました。そして、復活は死からの誕生にたとえられています。これは、非常に美しい姿です。人間は生まれる時、通常どこが最初に出てきますか。そう、頭です。そして、頭に続いて、からだの残りの部分が出てきます。ですから、イエスの復活は、イエスのからだが復活に続いて起こることの保証です。

また、イエスのからだの復活は、私たちの模範です。みなさんが興奮すべきことであると私は願っています。そうでなければ、私の話がみなさんにちゃんと伝わっていないのでしょう。パウロはピリピ3:20-21でこう言っています。

「私たちの国籍は天にあり…」

つまり、イエスのために生きるという決心をもって新しく生まれた私たちは、この地上で生き、地上での国籍を持つてはいますが、真の国籍は天にあるということです。私たちは、ある国の国民であるなら、通常はその国のパスポートを持つことができますね。ですから、私たちは、イエス・キリストの血というパスポートを持っているのです。

「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」

心のクリスチャンであるというしるしは、救い主を待ち望んでいるということです。続きの節です。

「キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」

これは、文字通りの翻訳ではありません、文字通りに訳すと、とてもはっきりします。

「キリストは、…私たちの恥なるからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」

お気づきでないかもしれませんが、みなさんも、私も、恥あるからだで生きているのです。罪のゆえに恥とされたのです。金持ちであるとか、健康であることには関係なく、あなたのからだは、自分が罪人であることを絶えず思い起こさせるという事実があります。ごちそうを食べ、好きなだけお酒を飲んでも、遅かれ早かれ、あなたはトイレに行って、あなたの腸も膀胱も空になってしまいます。あなたがどれだけ裕福であっても、名誉や地位があっても、それは恥のからだです。あるいは、どんなにいい服を着ていても、ちょっと運動すると、汗をかきます。これは恥のからだです。神はそのように、私たちひとり一人は、その罪のゆえに、私たちのからだによって恥のまま残されるべきだと定められたのです。しかし、イエスは、恥であるからだをご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださいます。素晴らしいことです！私たちのからだは変えられるのです。その変化についてはあとで詳しく見ていきますが、一つ密接に関連している事実があります。Iヨハネ3:2-3にこうあります。

「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。」

言い換えると、私たちはどのようなからだになるのかは、まだわからないということです。

「しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」

イエスが現われ、私たちがイエスを見るとき、私たちのからだはイエスに似た者へと変えられます。しかし、次の3節がとても重要であることに注目してください。

「キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」

あなたが復活を望んでいて、復活について議論することは私のすべきことではありませんが。しかし、もしあなたが自分のしていることを心から望んでいるなら、あなたは自分自身をきよくしています。きよさの基準は何でしょうか。イエスです。イエスの聖さのようにです。あなたが復活を望んでいると言っても、あなた自身がさらにきよく、さらに聖であるようにと求めている証拠が人に見えないのなら、自分を欺いているかもしれません。あなたは本当に願っているのではなく、単に宗教的なことばを使っているだけです。なぜなら、それは、恥のからだから栄光のからだへと変えられていくことを心から願っている人すべてに対するしるしだからです。もう一度その箇所を読みましょう。

「キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」

あなたにはそのしるしがありますか。あなたが切に望んでいる、あなたの人生におけるしるしは、イエスの再臨ですか。さて、私たちのからだはイエスのように変えられ、そのイエスは、時間や場所に制限がないと福音書の記録から見ることができます。イエスは天に上り、再び下り、すべての扉が閉められていた部屋に入り、ある人には一つの姿で、別の人には別の姿で現れました。イエスは順応自在なからだを持っておられたということが出来るでしょう。私たちも同じようなからだに変えられると、私は信じています。

人々は、「それはどのようなからだだろうか。」と疑問に思います。パウロは、I コリント15:35-38で、その疑問を取り扱っています。

「ところが、ある人はこう言うでしょう。『死者は、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。』」

ほとんどの人がそのように感じたことがあると思います。

「愚かな人だ。(…これは、私ではなく、パウロのことばです。)あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。」

そして、続けてその種のたとえを語っています。

「あなたが蒔く物は、後にできるからだではなく、麦やそのほかの穀物の種粒です。しかし神は、みこころに従って、それにかからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります。」

さて、そこには2つのことが組み合わされています。継続と変化です。リンゴの種を植えて、みかんを収穫することはありません。種の性質は、その種から生まれる命の性質を決定づけます。つまり、継続するものがあり、変化するものも、またあるのです。りんごの木は、土に植えた種とは全く違った形をしています。ですから、継続されるものがあります。あなたは、あなたのみですが、劇的に超自然的な変化が起こります。あなたが蒔いたものが、生まれてくるものを決定づけますが、何が生まれてくるかは、蒔いたものとは全く違ったものです。ですから、私たちのからだは葬られることで、種として土に蒔かれます。同じからだが出て来ますが、まったく違った姿です。それは非常に鮮明であると私は思います。

種について考えると、私はいつもすごいと思います。どんな色であれ、その小さなものについて考えるのですが、いつも私が考えるのは、スイカです。その黒い種を土に蒔くと、大きな丸いスイカが出てくると誰が信じていることができるでしょう。それは奇跡の継続です。私たちが種を蒔くたびに、私たちは奇跡を植えているのです。そして、その奇跡は私たちの復活を思い起こさせるようにあるのです。

イエスは、よみがえられた時、十字架につけられたその同じからだであることをとても注意深く強調しました。ルカ24章を見ましょう。イエスが最初に現れたとき、弟子たちはみな、ひどく恐れしました。何が起こったのか全く信じられませんでした。しかし、ルカ24:38-39でイエスは、よみがって現われた後に、弟子たちにこのように言っています。

「すると、イエスは言われた。『なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。』」

イエスが十字架に架けられた証拠である手とわき腹を彼らに見せました。同じからだであるけれど、変えられたという事を明らかにしたかったのです。

そしてヨハネ20章でイエスの復活のさらなる記録があります。19節です。

「イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。『平安があなたがたにあるように。』」

「平安があなたがたにあるように」というのは、中東の伝統的なあいさつです。

「こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。」

イエスは何故そうしたのでしょうか。彼らが見た、十字架につけられた同じからだであることを示すためです。トマスはその時そこにおらず、「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言いました。そして、1週間後にイエスが再び現われ、トマスにこう言いました。27節です。

「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。」

言い換えると、トマスが手を差し入れることができるほど、傷跡はそのままでした。これは非常に重要です。なぜなら、あなたが復活する時、あなたは新しいからだを持つようになるのではなく、違ったからだを持ちますが、同じからだが変わえられるということだからです。

さて、パウロは私たちの復活するからだには、5つの特定の変化があると言っています。I コリント15:42-44、そして52、53節です。

「死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ……」

朽ちるものとはどういうことでしょうか。腐敗です。腐敗するものはみな、朽ちるのです。

「卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。」

血肉のからだがあり、御霊のからだもあります。それは理解しにくいものです。残念なことに、その翻訳はあまり助けになっていません。これは英語翻訳の問題点の一つであり、すべての翻訳にも同じ問題があるようです。ギリシャ語の単語は、*psuchekos* で、ギリシャ語でたましいという単語の *psyche* から来ています。一番ふさわしいと思われる翻訳はたましい的ですが、たましい的なからだで蒔かれ、御霊のからだによみがえらされるということです。霊とたましいの違いがあることはご存知だと思います。たとえばスウェーデン語やデンマーク語のように、たましい的のための単語がある言語もあります。英語や日本語にも、聖書が教えているものを正しく表わすための単語があればと思います。

たとえば、I コリント2:14でパウロはこう言っています。

「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。」

その翻訳はすべて、「生まれながらの人間」、「肉的な人間」などとなっています。それは、たましい的と御霊的の非常に重要な違いをあいまいにしています。正確には、たましい的だからだは蒔かれ、つまり葬られ、御霊のからだはよみがえるのです。

それを説明するように言われても、私の言いたいことがうまくみなさんに伝わるかどうかわかりません。しかし、私たちの今あるからだにおいて、たましいが決断をするようにあなたにお勧めします。私がドアを通過して行きたかったら、私のたましいはドアを通過のように言い、私の足は従います。ある意味、私たちの霊は私たちのたましいにより頼んでいるということです。ダビデが自分のたましいに「わがたましいよ、主をほめたたえよ。」と言ったことを思い出すことができますでしょう。「ほら、そうするんだ。」そのように、霊は、主をほめたたえたいのですが、たましいは反応が遅いのです。見たところそのようです。私たちは、自分の霊が正しいことを行なうように、自分のたましいをかき立てなければなりません。私たちは主をほめたたえなければならないことはわかっていますが、私たちのたましいは怠慢なので、たましいをかき立てなければなりません。あなたは納得がいけないかもしれませんが、これが私にできる最善の説明です。

からだはよみがえる時、それは御霊のからだとなります。言い換えると、霊が直接からだを統制します。どのようにでしょうか。私にはわかりません。何年も前、私の最初の妻が住んでいたデンマークに、ひとりの床屋の男性がおり、彼はどちらかというと単純な人でしたが、ある日こう言いました。「夢を見たんだ。私は体のようなものになっていて、行きたいところをただ指し示すだけだった。行きたいところを示すとそこへ行けた。もし右へ行きたかったら右を指し、左へ行きたかったら左を指す。どこでも私が指し示すところへ私のからだは行ったんだ。」それは御霊のからだであると私は思います。それは、からだはどのようになるかという小さな予見です。あなたがからだにしてほしいと思うことを、たましいを通してさせる必要はなく、あなたの霊が決断をします。

このことを受け入れることができるかどうかわかりませんが、これは私が提供できる最善のものです。

では、I コリント15:52-53を読みましょう。こう言っています。

「終わりのラツパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラツパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。」

朽ちるものは、腐敗の支配下にあり、死ぬ者は死の支配下にあります。ですから、これらの2つの聖書箇所を合わせると、私たちのからだに起こる5つの特定の変化があります。

朽ちるものは、朽ちないものへとなり、腐敗の支配下にある者は、もはや腐敗の支配下にありません。死から不死へとなり、死は、もう死の支配下にありません。葬られたところは恥から栄光へとなり、ある意味、みじめというより、私たちが下る方法と言えます。私たちがよみがえる時、栄光とともによみがえります。弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされます。そして、すでにお話したように、たましい的だからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされます。それら5つの変化をもう一度復習しましょう。

朽ちるものから朽ちないものへ。

死から不死へ。

恥(卑しいもの)から栄光へ。

弱いものから強いものへ。

血肉(たましい的)から霊に属するものへ。

さて、イエスの復活は、クリスチャンの教えの絶対的なカギとなる要素です。それを除外して、自分をクリスチャンということはできません。I コリント15:14でパウロは言っています。

「そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。」

また、17節では、

「そして、もしキリストがよみがえらなかつたのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。」

言い換えれば、私たちの罪の赦しは、イエスの復活と完全につながっているのです。イエスが復活しなかったら、福音は偽りで、私たちの信仰はむなしく、私たちはなおも罪の中にとどまります。ご存知かもしれませんが、イエスのからだの復活の事実を否定する、多くの優れた神学者などがいます。その人々は今も自分の罪の中に留まり、救われてはいません。イエスの肉体の復活を信じない限り、救われることはできないのです。

では、イエスの復活の証明に進みましょう。イエスの復活について、聖書ではどのような証拠が挙げられているでしょうか。それは興味深い事実であり、第一の証拠は、目撃証言ではありません。第一の証拠は、人間の証言よりも優先されるみことばという証拠です。

イエスの復活を預言している旧約聖書の箇所をいくつか見てみましょう。これは、とてもとても興味深い話題で、もう少し時間があればと思いますが、I ペテロ1:10-12で言われていることを見てみましょう。

「この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのための奉仕であるとの啓示を受けました。そして今や、それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。」

つまり、旧約聖書の預言者たちは、実に難問を抱えていました。それは驚くほどの難問であったのでみなさんに理解してもらえるかどうかわかりません。ペテロは、メシヤの御霊なるキリストの御霊が預言者たちのうちにおられると言っています。ですから、その靈感のもとで預言者たちには決して起こりえないことがイエスに起こるという、最初のお方について、彼らは語ったのです。それは困難であったに違いありません。あなたが旧約聖書の預言者たちの立場にあ

ったら、と考えたことがあるでしょうか。彼らは自分たちには決して起こりえないことについて非常に奇妙なことを言いました。2つの例を上げましょう。詩篇22:16、これはメシヤの詩篇と呼ばれています。言い換えれば、メシヤの啓示の解き明かしです。ダビデは最初のお方についてこう言っています。

「犬どもが私を取り囲み、悪者どもの群れが、私を取り巻き、私の手足を引き裂きました。」

それはダビデには決して起こらなかったことです。このように言ったとき、ダビデはどのように感じていたと思いますか。私には見当もつきませんが、彼のうちにあったキリストの霊に導かれたのです。ですから、自分には決して起こらない、メシヤに起こることの最初のお方について語ったのです。

また、イザヤ50章を見てみましょう。他の例も数えきれないほどありますが、2つのとても明確な例だけを挙げています。イザヤ50:6です。

「打つ者に私の背中をまかせ、ひげを抜く者に私の頬をまかせ、侮辱されても、つばきをかけられても、私の顔を隠さなかった。」

それは、イザヤの人生には決して起こらなかったことで、イエスの公生涯において起こりました。しかし、それは最初の人について書かれています。私の言っていることがわかりますか。聖霊を通して、彼らのうちにあるメシヤの霊がメシヤなるイエスに何が起こるかを預言しているのです。それは彼らには決して起こらないことでした。ですから、当然彼らは語っていることが起こる時を調査しました。預言されたことを受け取る信仰を持っていたその人々の信仰に圧倒されます。これは、聖書で預言されているキリストの復活の最初の確証ですから、彼らのことを神に感謝します。

ペンテコステの日に使徒ペテロによって引用された詩篇16篇に、イエスの死と復活の驚くべきあらすじがあります。詩篇16:8です。

「私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。」

それはダビデについてであり、またメシヤについてでした。自分が経験した特定のことを語り、また、その経験を越えて自分たちには実際には起こらないことへと話を移しています。ダビデは続けて言っています。

「それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでいる。」

そして、使徒2:26を開くと、あなたのたましいが何であるかがわかるでしょう。ペテロは「私の舌は大いに喜んだ。」と言っています。お分かりですか。以前お話ししましたね。あなたの舌はあなたのたましいです。なぜなら、あなたの舌は、神に栄光を帰するためにあなたに与えられた、あなたの口の中にある機関の一つだからです。ですから、ダビデはこう言っています。

「それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでいる。私の身もまた安らかに住まおう。」

言い換えれば、私は葬られたが、復活の希望がある、ということです。

「まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず・・・」

イエスのたましいはよみに下られたということです。

「あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。」

イエスのからだは墓に相当な時間置かれていても、腐敗に苦しむことはありませんでした。なぜなら、イエスは一度も罪を犯したことがなかったからです。罪はからだを腐敗させる苦しみです。そして最後の節でこう言っています。

「あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。」

それはイエスがよみがえられた時に成就されました。イエスは父の臨在へと戻り、そこには喜びの成就がありました。それは一例です。

もう一つは詩篇71:20-21で、これは驚くべき詩篇です。作者が誰かはわかりません。もしお知りになりたければ、その背景を見てください。しかし、作者は神についてこう言っています。

「あなたは私を多くの苦しみと悩みとに、合わせなさいましたが、私を再び生き返らせ、地の深みから、再び私を引き上げてくださいます。」

そのことは詩篇の作者たちの誰にも起こらなかったことです。

「あなたが私の偉大さを増し、ふり向いて私を慰めてくださいますように。」

これはイエスにのみ当てはまります。イエスは葬られ、生き返り、よみがえられ、その偉大さが増されました。イエスはすべての名に勝る御名の持ち主となりました。それは詩篇の作者に起こったのではなく、イエスに起こったことです。彼らのうちにあったメシヤの霊が後に起こることを前もってあかしたのです。あなたがこの真理を取り入れ始めるなら、それはイエスの復活の現実性の最も力強い確証となります。

そしてもう一つの興味深い聖句があります。パウロは、I コリントで福音は3つの事実から成っていると述べています。それは以前にも見たところですが、イエスは聖書に従って死に、葬られ、聖書に従って3日目によみがえりました。あなたは聖書が、どのようにイエスが3日目によみがえると言っているか調べたことがありますか。それはたった一箇所だけに見られ、その文脈をはるかに超える興味深い箇所です。ホセア6:1-2です。

「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、いやし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ。主は二日の後、私たちを生き返らせ、三日目に私たちを立ち上がらせる。私たちは、御前に生きるのだ。」

これは、3日目の復活の非常に明確な記述です。興味深いのは、それがイエスについて言っている単数形ではなく、複数形であって、私たちについて語っていることです。

これは、啓示です。エペソ2章を見てみると、パウロがこの啓示をどのように適用しているかがわかります。このように、預言とは単に後に起こる出来事を予言するだけでなく、それらの出来事の真の重要性を示す方法で予言します。予言だけでなく、解釈もするのです。エペソ2章4節はその完璧な例で、すべての真の信者について書かれています。

「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちを……」

これは素晴らしいことです。神は、死んでいた私たちを愛してくださいました。いったい、何人の人が死体を愛することができるでしょうか。神は何をしてくださいましたか。3つのことです。

「キリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。」

それらはすべて過去形です。ですから、イエスと私たちの同一化のゆえに、私たちは生かされ、よみがえらされただけでなく、御座に着きました。それが私たちの行くところです。そしてパウロはそれを未来においていません。本質的には、もしあなたがそれを受け入れることができるなら、今まさに、イエスとともに御座にいると言っています。しかし、これはホセア6:1-2の成就です。聖書がどれほど素晴らしくそれを解説しているかを見ましょう。

そして、パウロは人間の証言のリストも与えています。無関係ではありませんが、二次的なものです。簡単に少しだけ見ましょう。I コリント1:5-8です。まず4節にこうあります。

「また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと」

5-6節。

「また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。」

彼らの大多数は今なお生きており、当時彼らはおそらくかなり若かったでしょう。

「その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。」

これは、イエスの復活を目撃した人々のリストです。ユダヤの律法によると、2人の確実な証言は、法律にのっとった確証に十分でした。しかし、神はイエスの復活のために2人以上の証言を与えておられます。

ちなみに、これは私にとって興味深いことですので、お話ししますが、パウロは早産のように、予定日より早く生まれた者としてイエスを見たと言っています。私はそのことについて長い間思い巡らしてきましたが、パウロはイスラエルがメシヤを目にする時の究極的な救いの予示であったと信じます。パウロは2000年前に、月足らずで生まれました。あなたはそれについて私と議論しても構いません。それでもあなたはなお救われます。

さて、復活の重要性についてお話ししましょう。イエスの復活の重要性を過大評価することはあり得ません。それは宇宙の歴史の決定的事実です。人類だけではなく、宇宙の歴史全体が、イエスの復活の事実の周りを回っています。第一に、それは神によるイエスの正当性です。覚えていますか、世俗のローマの法廷と宗教的なユダヤの法廷という2つの法廷がイエスに死刑を言い渡しました。そしてイエスはその刑のもと、葬られましたが、よみがえられた時、神は御子を正当としました。これは、ローマ1:3-4で表現されています。

「御子に関することです。御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」

これは聖霊のユダヤの言い方で、実際、ヘブル語では、聖霊は聖い御霊です。パウロがヘブル語で考え、ギリシャ語で書いていることに気づいていない翻訳者もいます。

「聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方・・・」

ですから、イエスが墓から出てきた時、神は言われました。「私は、それらの不当な決定を翻した。私の息子の潔白を証明した。彼は決して罪を犯さず、死刑になる理由もなく、私の聖霊によって、彼をよみがえらせた。」

これは興味深いです。これ以上長く語りませんが、贖いのあらゆる重大な分かれ目は、神格の3つすべてに関連しています。イエスの概念は、御子を押し出すために御霊を通した父によるものです。ペテロは、イエスの奉仕を、「父なる神が聖霊と力でイエスに油注いだ」と言っています。父は御霊で御子に油注ぎました。イエスの死について、「永遠の御霊を通してご自身を神にささげた。」と言っています。御霊により、御子は父のもとへ行きました。イエスの復活は、「御霊により父は御子をよみがえらせ」ました。そして、ペンテコステでの最後の宣言は、「イエスは御霊の賜物を父から受け、弟子たちに注がれた。」です。このように、神格の完全な三位一体は、贖いのすべての主要な段階に関連しています。敬意をもって言うならば、神格のうち1人として、この栄光ある人類への訪問において省かれてほしくないかのようです。神は私たちが知っている以上に私たちに興味があります。私にとって、それは大いに意義あることです。神格全体は贖いのプロセスのあらゆる主要な段階に完全に参与しています。

さて、イエスの復活は私たちの義のための基礎です。イエスが復活しなかったら、私たちはなおも罪の中にあります。パウロはローマ4:25で言っています。

「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」

もしイエスがよみがえらなかつたら、私たちは義とされることはなく、私たちはなおも罪の中にいるでしょう。そして、パウロはローマ10:9-10で救いについて言っています。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

お分かりですか。神がイエスを死からよみがえらせたことを信じなければ、あなたは救われません。それが救いの本質です。残念ながら、クリスチャンだと公言している多くの人が肉体的な復活を信じていません。たとえ彼らが教会でどのような地位を占めていようと、一人として罪の赦しの平安と喜びを知ることができないのです。

そして、復活は私たちを救うキリストの力の保証です。ヘブル7:25はこのように言っています。

「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」

イエスがなおも墓にいたなら、どのようにして私たちを救うことができるでしょうか。しかし、イエスは私たちの罪の贖いをされたゆえに、また天と地においてすべての権威が与えられたゆえに、神の右におられ、完全に私たちを救うことができになるのです。私はその表現が気に入っています。ある人は、どん底から最高に至る、と言いました。イエスの救いの力には限界はありません。イエスはすべての力を持っておられます。

そして、これはまたとても重要なことですが、復活は私たちの贖いの完成です。いいですか、私たちの最終目的地は天国ではありません。私たちが天国に行けることは素晴らしいことですが、それは単なる中継点で、私たちの霊が天にある間は、私たちのからだはなおも墓で腐敗しているのです。それは完全な救いではありません。イエスは人格全体のために死なれました。イエスの救いは霊、たましい、からだを含みます。そして、その救いは復活までは完全ではありません。パウロはこのことを非常に明確にしています。彼はピリピ3:10以降で、自分の人生の目標と目的を語っています。

「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。」

パウロは天に行くことについて心配しておらず、その願いは死者の中からの復活でした。私たちが死んだら、私たちの霊は天に行くけれども、私たちのからだはまだ贖われていないので、天に行くことが贖いの完成ではないことを神に感謝します。パウロは復活のしるしを定め、非常に力強いことを語っています。彼は、「どうにかして復活に達したい。」と言っています。彼が復活に達することを当然のこととは見なしていませんでした。みなさん、あなたはいつの間にか

復活するわけではありません。あなたが漂流しているなら、どこか別の所へたどり着きます。それには、実に重要な献身と決意が要求されます。

このことを十分真剣にとらえていない数多くのクリスチャンに出会ってきたことを残念に思います。パウロが、「どうにかして復活に達したい。」と言わなければならなかったのなら、どうしてみなさんや私が、どのみちそこへたどり着くだろうと言えるでしょうか。私たちはパウロと同じ霊的レベルにあるでしょうか。おそらくそうではないでしょう。しかし、パウロでさえ、そのことを当然とは思っていませんでした。

彼は以降の節でまたこのように言っています。

「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。兄弟たちよ。私は、自分はずでに捕らえたなどと考えるではありません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。」

パウロは、ひたむきでした。彼は語っていたとき、「私はまだ着いていない、まだ到達していない。」と言いました。しかし、「この一事に励んでいます。目標を目指して一心に走っている。私は、死者がキリストにあつて復活する時、そこにいるという一つの究極的な願いと決意を持っている。」

そして、あなたがそれはどのようなことかと考えるとき、それを見逃すことは残念なことなのです！ 本当に！ それは、私たちの限られた知性では、その弱く腐敗しやすいからだが、突然、光輝くイエスのようからだに変えられるとき解放される栄光と力は、想像もできません。素晴らしいことですよね。私にとってはそうです。事実、少しそのことについて思い巡らしてみなければなりません。

ローマ8:23はまた、このように言っています。いいかえれば、救いは復活までは完成ではありません。まず22節を見ましょう。

「・・・被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしている・・・」

そして、

「そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。」

みなさんにお聞きますが、それはあなたにとって真理ですか。あなたは御霊の初穂をいただいています。あなた自身の心の中でうめいていますか。待ち望んでいますか。いったい、神がより低いレベルで私たちを取り扱うであろうと考える権利が私たちにあるでしょうか。聖霊のバプテスマは、単に素晴らしい時を持つためだけでなく、前に置かれているものために私たちを整えるために与えられているのです。私はまさに今厳粛な思いでそれを感じています。

次に復活についてお話ししたいことは、イエスと私たちの一致の完成です。I テサロニケ4:17でこう言っています。

「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一しょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです…」

空中というための2つのギリシャ語の単語があることは興味深いです。一つは非常に高いところを表現する単語で、もう一つは地球の表面に近い空中です。ここで使われている単語は低い空中です。ですから、私たちは主に会うために地上からかなり離れた高い所に行くわけではありません。

「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一しょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」

そのあと、それ以上の別れはありません。私たちは常に主とともにいて、私たちは常に互いに一緒にいるのです。

さて、私にはすでに先だった愛する妻がいます。しかし、いつの日か私たちは永遠とともにいることでしょうか。ですから、みなさん、このことをどうか見逃さないでください。もしこれを見逃すなら、それはあなたの人生の最大の悲劇です。これは重大で真剣なものです。

最後に、このことを言わなければなりません。復活は3つの段階があります。I コリント15:22です。

「すなわち、アダムにあつてすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。しかし、おのおのにその順番があります。」

ここに順序があります。3つの別の段階です。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者、そして最終的な終わり、すべての死んだままの者たちの最終的な復活です。イエスは誰に戻って来られるのですか。キリストにある者たちにです。イエスは、盗人ではないので、ご自分に属さない物や人を連れて戻ってくることはありません。あなたは本当にキリストに属していますか。それは重要な質問です。その人々の所に、キリストは戻って来られます。

キリストは初穂と呼ばれました。ここに実に興奮すべき聖書の最後の節があります。レビ記23章です。素早く簡単な儀式です。これは、モーセの律法のもとにある儀式です。10-11節。

「イスラエル人に告げて言え。わたしがあなたがたに与えようとしている地に、あなたがたが入り、収穫を刈り入れるときは、収穫の初穂の束を祭司のところに持って来る。祭司は、あなたがたが受け入れられるために、その束を主に向かって揺り動かす。祭司は安息日の翌日、それを揺り動かさなければならない。」

安息日は何曜日ですか。土曜日です。安息日の翌日は何曜日ですか。日曜日です。イエスは何曜日によみがえりましたか。そう、日曜日です。イエスは、束であり、私たちがイエスのゆえに受け入れられるために揺り動かされました。

イエスはたった一本の穂ではなく、束でした。マタイ27章を読むと、イエスが死んだとき、地震が起こり、墓が開いて眠っていた聖徒たちの多くが都の中へ入ってきました。私は、彼らが墓の中へ戻って行ったとは思いません。彼らはイエスとともに上って行ったと信じます。彼らは後に続く多くの群衆がいると言って、主の前に揺り動かされる束となりました。ここに私たちがいます。私たちは束であり、初穂です。

これ以上お話しする時間がなくなってきました。あなたが本当にしるしに向かって突き進んでいるか、人生で正しい優先順位をしているかどうかをチャレンジしたいという私の霊に完全に押されています。1977年だったと思いますが、私はニュージーランドの北島でとりなしの集会に出ていました。私はすべての国に存在する一人の強い存在の事実について教えていました。彼らは私に聞きました。「ニュージーランドに働く強い存在とは何ですか。」それは私の教えるべきことではなく、ニュージーランドのクリスチャンが見いだすべきものです」と私は答えました。しかしその時、私は主が、「その強い男を教えよう。」と言っていると感じました。ですから、私はそれを伝えたのですが、その中に、私たちの親しい友人であるビル・スプリツキーが後ろの方に座っていました。彼はあとで、私がそのことを語っていたとき、神が同じことを自分にも語ったと言いました。私が言ったことにあなたは期待外れだと驚くでしょう。ニュージーランドの強い存在は無関心です。私はニュージーランド人のように話せませんが、ニュージーランドの典型的な表現は、「大丈夫だろ。」であるとニュージーランド人から聞きました。言い換えると、それは放っておいても解決する、それを放っておいたら解決するということです。それは、ニュージーランドにおける数々の問題の最大の問題です。あなたがそれを取り扱わないなら、あなたは整えられないでしょう。なぜなら、イエスは無関心の人のために戻って来られるのではなく、イエスを熱心に待ち望む人々のために戻って来るのです。

みなさんに一つの機会を与えましょう。そうしなければ、私はみなさんに不公平になります。もしあなたが、私が言っている、イエスを待ち望んで生きるべきだという光の中を歩んでいないと気づいたのなら、あなたは変わる時です。悔い改めについて私が言ったことを覚えていますか。行動によって決意がなされるのです。もしあなたに悔い改めが必要なら、個人的に一人一人に語っているのです。みなさんを私は個人的に知りませんが、あなたが悔い改めを願うなら、今がその時です。わたしが何と言ったか覚えていますか。あなたは悔い改めたいときに悔い改めることができるのではなく、聖霊があなたを促すときにのみ、悔い改めることができるのです。

そのような方が今おられるなら、聖霊があなたは正しく生きていないとあなたに語っているなら、あなたはあるべき態度をしていないなら、イエスの再臨を待ち望むなら、正しい位置にそれを置きたいなら、私はあなたがたにチャレンジを、機会を与えたいのです。今から私とともに祈ってください。主にお会いする準備ができていないと思っているなら、あなたは主の再臨を熱心に待ち望み、神と正しい状態にいたいという生き方をしていないのであり、今こそ、それをする最善の時です。私はあなたに機会を与えますが、この招きを長くとうとは思いません。今このとき、神と正しい状態にいることを願うなら、この招きに応答してください。

もし、可能であれば、その場でひざまずいてください。そうするかどうかは正しい態度かどうかには関係はありませんが、ひざまずくことは、へりくだることです。主の前にへりくだるのです。それが私たちに必要なことです。

今からあなたのためにお祈りします。私がこの祈りをしてアーメンと言ったら、あなたは神に向かって心から声を上げて叫んでください。私があるに言葉を与えるのではなく、ただあなたの心から神に語ってください。主の油注ぎを感じます。では祈ります。

主イエス・キリストさま、あなたは私たちの救いの源です。あなたは死からよみがえった初穂なるお方です。あなたは私たちのとりなし手として天におられ、父の右に座し、今私たちのためにとりなしをしてくださっています。あなたが生きておられるので、私たちも生きることができます。主よ、あなたが間もなく戻って来られる光の中に歩むべき生き方をしていないと気づいて、御前に来ているこの愛する人々をご覧ください。神さま、イエスの御名によって今あなたの聖霊を彼らに注いでください。恵みの霊を注ぎ、心からあなたに叫ぶことができるようにしてください。主よ、まごころと謙遜、神を畏れる祈りを彼らが捧げることができますように。イエス・キリストの御名によって今、その霊を彼らの上に解き放ってください。とりなしの霊を解き放ってください。主よ。彼らは祈り始めます、神よ、憐み深い主よ。

アーメン、アーメン。どうぞ、神に叫んでください。